

平成21年度第3回新潟市若年者自立支援ネットワーク会議 議事録(概要)

と き:平成22年3月26日(金) 午前10時から

と ころ:新潟市役所本館 議会第4委員会室

発 言 者	発 言 概 要
司 会	<p>ただ今から「平成21年度第3回新潟市若年者自立支援ネットワーク会議」を開催します。</p> <p>本日は大変お忙しい中、皆さまからお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会を務めさせていただきます、商業振興・雇用対策課雇用対策室長の笠原と申します。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>限られた時間でございますので、早速会議を進めさせていただきます。</p> <p>なお、本日の会議について、議事録作成のために録音させていただいています。ご了承のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p>では、はじめに、本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>配付の資料は、本日の「会議の次第」、出席者名簿及び座席表のほか、資料1として「現下の雇用状況等について」</p> <p>資料2として「サポートステーション事業実施報告」</p> <p>資料3として「本ネットワーク会議の設置要綱」です。</p> <p>それから、資料ナンバーを付していませんが、本日ご出席の委員の皆様からご提供がありました資料として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟労働局職業安定課様からの「平成22年度若年者支援年間行動計画(見え消し版)」 ・ハローワーク新潟様からの「事業主のみなさまへ『ハローワーク統計』」 ・NPO法人伴走舎様からの「新聞の写し」 ・新潟大学キャリアセンター様からの「平成22年3月卒業(修了)予定者の就職支援状況等について」 ・新潟市社会福祉協議会様からの「地域交流活動助成事業報告書」 ・新潟市こころの健康センター様からの「『代表電話番号』の変更について」 ・新潟県労政雇用課様からの「新潟県の雇用対策」,「ニート等の若者の職業的自立支援の強化」 ・新潟市教育委員会学校支援課様からの「キャリア教育は生徒に何ができるのだろう?」 ・新潟地域職業訓練センター様からの「仕事に必要なIT操作修得!訓練センターが応援します!!」平成22年度新潟地域職業訓練センター講習・研修,その裏面「新潟市高等職業訓練校職業訓練」 ・雇用・能力開発機構様からの「平成22年度受講生募集のご案内」,「人材確保」で困ってませんか?パート2」「就職勝道」「基金訓練を実施する事業所に奨励金を支給」平成22年度受講生募集一覧」

<p>司 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市発達障がい支援センター「JOIN」様からの「第二回自閉症・発達障害啓発フォーラム IN 新潟」 ・新潟県発達障がい者支援センター「RISE」様からの「発達障害の理解のために」「平成22年度発達障がい者支援センター事業実施計画」以上です。よろしいでしょうか。 <p>続きまして、本日、委員の皆様のお出席状況をご報告させていただきます。</p> <p>欠席委員はいらっしゃいませんが、代理出席いただいている方をご紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市健康福祉総務課長の高橋委員の代理として、同課の渡辺地域福祉係長です。 ・新潟市教育委員会学校支援課長の南委員の代理として、同課の佐藤副参事です。 ・新潟労働局職業安定課長の石田委員の代理として、同課の北澤若年者対策主任です。 ・雇用・能力開発機構新潟センター調査役の田村委員の代理として、同センターの吉川委託訓練第二係長です。 ・新潟公共職業安定所長の樋口委員の代理として、しごと館の野島館長です。 ・新潟県労政雇用課長の矢野委員の代理として、同課の益田労働福祉・雇用均等係長です。 <p>以上の皆様が代理で出席されています。</p> <p>また、本日、新潟市発達障がい支援センター「JOIN」の佐藤様から、オブザーバーとして出席いただいておりますことをご報告させていただきます。</p> <p>以上、事務局からのご報告を終わります。</p> <p>これからの議事進行につきましては、西條会長によりしく願います。</p>
<p>西條会長</p>	<p>それでは、今年度最後の会議になろうかと思えます。</p> <p>早速ですが、議事に入らせていただきます。</p> <p>次第に従いまして2の報告事項「(1)現下の雇用状況等について」事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局(新井田)</p>	<p>資料1「現下の雇用状況等について」により説明</p>
<p>西條会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今の事務局からの説明について、何かご意見、ご質問はありますでしょうか。</p>

西條会長	<p>特に質問などないようですので、次の議事に入らせていただきます。</p> <p>続いて「(2)新潟地域若者サポートステーションの事業実績等について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局(竹葉)	資料2「サポートステーション事業実施報告」により説明
西條会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今の事務局の説明について、ご質問、ご意見はありますか。</p>
中島委員	<p>私は受入企業代表ですので、私からも一言、皆様方にご説明したいと思います。</p> <p>先ほどサポステの方から、5組の団体がグループの中から出席したと説明がありました。言い方はおかしいのですが、そのうちの2社はニートの人たちというか、雇用に困っている人たちを助けるために作った事業所なのです。</p> <p>ということは、一般民間企業としては3社しか集まらなかった。これは、私を含めてとても責任を感じなければいけない問題であって、各企業に対する情報提供及び意識管理が非常に不十分であるということが、現状として言えると思っています。</p> <p>今後、月に1回顔合わせという形をとらせていただき、そこで様々な議論がされると思いますが、そういう情報を積極的に各企業に提供していただき、今ほど事務局から、今後、受入れ事業所を増やすことが大切だというお話がありました。それは本当にそのとおりだと思います。</p> <p>一方、現在、登録していただいている企業さんに対する啓発を十分に行わなければいけないのではないかと自覚しました。</p>
西條会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>登録しているジョブトレ受入れ企業先への情報提供というお話をいただきました。</p> <p>ほかにご意見、ご質問等がありますか。</p> <p>後ほど意見交換の時間もとっておりますので、特になければ、次の議事に入らせていただきます。</p> <p>次に、これまでの自立支援の取組の中から、委員の皆様にご共通認識を持っていただく意味で、個別事例について事務局から報告をお願いします。</p>
事務局(新美)	個別事例を2例報告

西條会長

ただ今、2件の個別事例の紹介として、ご報告がありました。事務局の報告について、ご質問、ご意見はありますか。

特にないようですので、次の議事に入らせていただきます。続いて、「(4)平成22年度国の『地域若者サポートステーション事業』基本方針について」新潟県労政雇用課の矢野委員の代理として出席されています益田係長からご説明をお願いします。

矢野委員
(代理：益田係長)

新潟県労政雇用課の益田です。配付資料に「ニート等の若者の職業的自立支援の強化」という資料があると思います。

この資料は、厚生労働省職業能力開発局の平成22年度予算要求資料ですので、これを参考に説明させていただきます。

左上の困みの所です。＜施策の方向性・基本的考え方＞の2つ目の項目にあるとおり、ニート状況の若者の数は64万人と高い水準で続いています。

30代後半の無業者も増えていることなどから、厚生労働省としましては、自立を希望する若者の就労支援は最重点の課題と認識していると聞いています。

また、この4月から、子ども・若者育成支援推進法が施行されるということもあり、教育機関を含めた支援ネットワークの整備を行って、自立が困難な若者に対する訪問支援なども行っていくと聞いています。

右上の＜22年度の予算案の内容＞についてですが、「1 地域若者サポートステーション事業」につきましては、サポステの設置箇所の創設ということで、現在全国に92か所ありますが、来年度は100か所に増えています。

県内につきましては、新潟、三条、村上の3か所で変わらない状況です。

この他の事業として、今回、新潟は対象にはならなかったのですが、高校中退者を対象とした訪問支援や高卒程度の学習の学び直し、また、進路相談などの継続支援事業、短期訓練等の合宿、そうした予算も計上されています。

その他、サポステ以外の事業になりますが、裏面をご覧ください。ニート、ひきこもり、不登校、発達障害などの問題が深刻化していることから、内閣府では、従来の個別分野における縦割りの対応では限界が生じているということで、この4月から子ども・若者育成支援施設のネットワークの整備を進めたいと聞いています。

ここで子ども・若者の対象は、0歳から30代後半までということ

<p>矢野委員 (代理：益田係長)</p>	<p>で、必要に応じて各自治体において地域の協議会を設置し、支援ネットワークを作ることとなっています。</p> <p>新潟市の場合、この会議がありますので、今後どう考えていくかということになるかと思えます。</p> <p>このほか、県内では福祉、教育、医療も含めた支援ネットワークとして、三条市で今年度から子ども・若者総合サポートシステムという形で取り組んでいます。</p> <p>詳しくは、ホームページをご覧になっていただければと思います。簡単ですが、説明を終わります。</p>
<p>西條会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今の説明について、ご質問、ご意見はございますか。</p> <p>よろしいでしょうか。特に質問などないようですので、次の議事に入らせていただきます。</p> <p>続いて、「(5)平成22年度の各機関・団体の事業計画について」、それぞれ2～3分程度でご説明をお願いしたいと思います。</p> <p>順番については、座席順でお願いします。</p> <p>それでは、はじめに新潟県発達障がい者支援センターの加治委員からご説明をお願いします。</p>
<p>加治委員</p>	<p>お手元に配付しています「平成22年度発達障がい者支援センター事業実施計画(案)」をご覧ください。</p> <p>内容が多岐にわたっておりますので、詳しい事業内容につきましてはご参照いただければと思います。</p> <p>主には、平成22年1月より新潟市発達障がい支援センター「JOIN」と12所の合同による研修会等の実施などに触れています。</p> <p>事業の大枠につきましては、平成21年度と大きな変更はございません。</p> <p>ただ、対象となる地域が新潟市以外を行いますので、そちらの方の支援が中心になると考えています。</p> <p>併せて、もう1枚お配りしました「発達障害の理解のために」をご覧ください。</p> <p>こちらは、平成18年度に開設しました時に「発達障害の理解のために」という同じタイトルで作成し、既に関係各位にお配りしているので、ご覧になった方も多いかと思えます。</p> <p>この度の「JOIN」の開設や発達障害のシンボルマークの変更に伴い、今回、内容を若干改定しましたものを作り直し、4月より関係機関等に改めて配付させていただく予定にしています。</p> <p>参考にご覧ください。</p>

加治委員	非常に簡単ですが，以上とさせていただきます。
西條会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>質疑応答については，最後に一括してお願いしたいと思います。</p> <p>続きまして，新潟市民生委員児童委員協議会連合会青少年部会長の篠田委員からお願いします。</p>
篠田委員	<p>私は資料を用意しておりませんが，ご存知のように民生委員は3年任期でございますが，今年の11月末で任期が切れ，12月1日に一斉改選となります。</p> <p>どのくらい民生委員が替るかわかりませんが，1，375名おまして，2割位は替るのかなと思っています。</p> <p>そういう方々に様々な新たな情報を提供していかなければならないだろうと思っています。</p> <p>私の所属しています青少年部会は，月曜日に役員会を予定にしていますが，5月末の部会総会において，新たにできた「JOIN」の紹介をしたいと思います。</p> <p>そして，年齢が合わない，皆さんが対象とする若年者という定義が15歳から35歳でしたでしょうか，その下のプレジョブの関係の方々が支援や協働したいと何回か見えています。</p> <p>私どももそれに対するスタンス，特にここの兼ね合いも含めてどういうふうにスタンスを取ったらいいのか，私の南万代地区においても支援を求めている方がいらっしゃいます。</p> <p>8区のうち3区か4区だったと思いますが，連絡会が出来てきているということです。</p> <p>それと，私ども南万代地区の民協でも，ふれあい給食として，年に4～5回ですが，お年寄りに給食をお配りするという事業，1回に120食位だったと思いますが，実施しています。</p> <p>その中で，全ての区の社協から補助をもらって実施しているのですが，だいたい3年で終わってしまうという中で，その間に自立なさいと行政は言いますが，なかなか自主財源を3年の中で確保するのは難しい。</p> <p>そうすると，前回の会議の時に報告のあった雇用の受け皿というか，弁当の話も出ていましたが，逆にその辺を摺り合わせて何か出来ていかないのかなというような考えもあります。</p> <p>いきなり民協ということではなく，取りあえず可能性があるとするれば，私の所属する民協と少し検討してみてもいいのかなと思っています。以上です。</p>
西條会長	ありがとうございました。

西條会長	<p>続きまして、新潟市健康福祉総務課の高橋委員の代理でご出席されています渡辺係長からお願いします。</p>
<p>高橋委員 (代理：渡辺係長)</p>	<p>健康福祉総務課地域福祉係長の渡辺です。 高橋課長が所用のため出席できません。 私が代理で説明させていただきます。 先ほど篠田委員からお話がありましたように、地域の茶の間を皆さんはご存じかと思えます。 「地域交流活動助成事業報告書」を皆様にお配りしています。 障がい者や高齢者が閉じこもりになり、なかなか地域の方たちと触れ合う場がない。 今、お話の中で、若年者の方も何らかの理由で閉じこもりや様々な社会的な要因で閉じこもりになっている。 仕事に行っているよりも、地域で孤立している状況を解消するために、地域の茶の間というのは高齢者だけに限らず、障がい者の方、子どもも参加して、昔あった温かい支え合いということが地域で行われています。 閉じこもりを解消するためには、地域の茶の間に参加する。また、地域の茶の間に参加して、地域の茶の間の事業を行っている。 例えば、配食サービスについて手伝いをさせていただくとか、施設へ訪問して皆さんの意見を聞いたりとか、社会に出ていく一つの手段として地域交流活動助成事業もしくは地域茶の間の事業に参加していただきたいと思えます。 もしよろしければ、各区において地域の茶の間の内容が書いてありますので、皆さんに登録していただきたいと思えます。</p>
西條会長	<p>ありがとうございました。 続いて、新潟市万代市民会館の石黒委員からお願いします。</p>
石黒委員	<p>万代市民会館にあります青年の家の関係について、お話しします。 青年の家としましては、今年度に引き続き若者自立支援講座を実施する予定になっています。内容は、今後詰めていく予定です。 また、若者の居場所の提供として地域若者サポートステーションや新潟若者支援ネットワークの伴走舎さんに、和室やプレールーム等を提供していくことにしています。 簡単ですが、以上です。</p>
西條会長	<p>ありがとうございました。 続いて、NSGカレッジリーグの久住委員からお願いします。</p>

久住委員	<p>今日は資料をお持ちしておりません。 組織がまだしっかりしておりませんので、今日のご報告できませんが、次回にご紹介させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
西條会長	<p>ありがとうございました。 続いて、新潟市教育委員会学校支援課の南委員の代理で出席されています佐藤副参事からお願いします。</p>
南委員 (代理：佐藤副参事)	<p>資料として「キャリア教育は生徒に何ができるのだろうか？」をお持ちしました。 教育委員会でキャリア教育を進めています。 これは国立教育政策研究所が作り出した資料で、高校生用です。 高校の先生方に1冊ずつ配布しています。 いわゆる進路指導が、大学をどこにする、就職先どこにするというような出口指導というところから、生き方指導、いわゆるキャリア教育というような形のものに移っていくところです。 それを先生方にお示しした資料になります。 裏をご覧くださいますと、本会議の地域若者サポートステーションも案内に出ているような総合的な資料になります。 これを元にして、高校の先生方でキャリア教育の推進をお願いしているところです。 これは高等学校版ですが、この他に小学校版、中学校版もあります。 中に「『生き方探求 新潟キャリア・チャレンジ』新潟市キャリア教育フォーラムの開催について」の通知を入れさせてもらいました。 これを受けまして教育委員会で、3月17日ですが、「『生き方探求 新潟キャリア・チャレンジ』新潟市社会教育フォーラム」というような形で選ばせていただきました。 文部省から研究官を招き、研究官からお話をいただいて、キャリア教育の推進を進めるという形のイベントをしたところです。 これからも、子どもたちのありかたの教育を進めていこうと思っています。以上です。</p>
西條会長	<p>ありがとうございました。 続いて、新潟労働局職業安定課の石田委員の代理で出席されています北澤主任からお願いします。</p>
石田委員 (代理：北澤主任)	<p>北澤と申します。よろしくお願いいたします。 資料として、「平成22年度若年者支援年間行動計画」を持ってき</p>

<p>石田委員 (代理：北澤主任)</p>	<p>ました。21年度版から修正箇所などが分かるように、「見え消し版」ということで持ってきています。 5ページをご覧ください。 ニートやフリーターの方ですと、語弊があるかもしれませんが、なかなか正社員という形での就労が難しい場合も多いかと思しますので、一定期間有期的に雇用して、その後、常用雇用を目指すといったような制度をハローワークでいくつか設けています。 「若年者トライアル雇用による常用雇用の促進」をご覧ください。 こちらにつきましては、3か月間有期雇用、最初は試しで雇っていただいて、その間、業務の理解等により、その後、常用雇用を目指すという制度になっています。 平成21年度の2月末までの状況ですと、1,600人位の方がこの事業を活用され、約1,300人の方、8割位の方が正規雇用に結び付いているという状況になっています。 「実習型雇用支援事業を活用した常用雇用の促進」の制度につきましては、昨年7月に新たに設けられた制度です。 こちらの制度につきましては、6か月間の有期雇用を設けます。その間に座学、実習といったものを企業様から行っていただきまして、それが終わった後に常用雇用を目指す制度になっています。現在約400人の方がこの制度を活用されており、40歳未満の若年者の方は約290人、約7割の方がこの制度を活用されているという状況です。 「若年者等正規雇用化特別奨励金を活用した年長フリーター等の常用雇用の促進」につきましては、年長フリーターの方、25歳以上40歳未満の方の支援です。 企業様から年長フリーターの採用枠を特別に設けていただき、正規雇用していただいた場合に、助成金をお支払いする制度になっています。 こちらの制度につきましては、2月末までに約300人の方が活用されています。 サポートステーションに相談されて、働きたいという意欲が高まってきましたら、是非、最寄りのハローワークに出向いていただき、こうした制度を活用しながら正規職員を目指して、就職活動をしていただければと思っています。 簡単ですが、以上で終わらせていただきます。</p>
<p>西條会長</p>	<p>ありがとうございました。 続いて、雇用・能力開発機構・新潟センターの田村委員の代理で出席されています吉川係長からお願いします。</p>

田村委員
(代理：吉川係長)

雇用・能力開発機構新潟センターの吉川です。よろしくお願ひします。

配付させていただきました資料は「平成22年度受講生募集のご案内」「『人材確保』で困ってませんか？パート2」「就職勝道」「基金訓練を実施する事業所に奨励金を支給」「平成22年度受講生募集一覧」です。当センターの平成22年度の職業訓練の計画を説明させていただきます。

「平成22年度受講生募集一覧」と書いてある資料になるのですが、こちらの方は施設内訓練といいまして、長岡にあるセンターにおいて、ものづくり系にかかる職業訓練を実施し、来年度は全体の定員として486名を計画しています。

なお、このうち、資料の真ん中あたりにもあるのですが、若年者対象コースとして、概ね40歳未満の方を対象に6か月の期間で座学と職場実習を組み合わせた訓練を予定しており、3科実施で定員が66名となります。

1枚めくっていただき、専修学校等の民間教育訓練機関等に委託する委託訓練を説明させていただきたいのですが、昨年11月に行われました行政刷新会議の事業仕分けにより、雇用・能力開発機構で実施する委託訓練は、大幅に都道府県に移管される形となりました。

このため新潟センターにおきましては、計画数が平成21年度の1,670名から大幅に削減され、平成22年度は340名実施となっています。

ただし、新潟県テクノスクールで実施する計画が増えており、新潟県全体としては前年度並みの4,000名程度の定員として実施予定となっています。

また、本来この場で来年度の委託訓練の計画コースの紹介をお伝えできればよかったのですが、委託先の決定方法が今までの企画競争という提案型から一般競争入札に変更となり、手続きの最中のため、早くとも7月からの開始予定になっています。

なお、概ね25歳以上40歳未満の若年者を対象とした訓練が、3か月間の再チャレンジコースといわれるものと、事業主に職業訓練を委託する企業実習先行型訓練システムがあるかと思うのですが、そちらの方で実施予定となっており、定員が70名となっています。

最後に、昨年の補正予算により、基金訓練が設置されています。資料をご覧いただきたいのですが、雇用保険を適用できない離職者に対して専修各種学校、NPO法人、事業主さんなど人材育成に関わる幅広い社会資源を最大限活用し、職業訓練を行うという緊急人

<p>田村委員 (代理：吉川係長)</p>	<p>材育成事業が創設されました。</p> <p>これは、基金訓練として実施されており、雇用・能力開発機構では都道府県センターにおいて申請者の開拓、申請書の事前審査、訓練の実施状況の確認などを実施しております。</p> <p>主な基金訓練の実施コースとしましては、リーフレットにもありますが、パソコン操作を学ぶ職業横断的スキル修得コースといわれるものや、基礎力の養成と多様な分野を受講生に経験させるという基礎演習コース、専門分野に特化した実習・演習コース、社会的事業者の担い手を育成する、主にNPO法人が申請者として想定されるのですが、社会的事業者等コースがあります。</p> <p>新潟県で4月開始コースは、先ほどの資料に一覧として付けています。500名の定員で実施となっています。</p> <p>なお、基金訓練としては、未就職卒業者に対する訓練というのも実施するような形となっており、こちらも今現在1コース実施しています。また、今後も出てくるかと思えます。</p> <p>以上で、説明を終わらせていただきます。</p>
<p>西條会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、新潟県職業安定所・樋口委員の代理で出席されています野島館長からお願いします。</p>
<p>樋口委員 (代理：野島館長)</p>	<p>ハローワーク新潟です。</p> <p>資料は「事業主の皆様へ～ハローワーク統計」を用意しました。</p> <p>平成22年度の事業計画は、現在作成中で資料として皆様方にお示しすることができません。申し訳ありません。</p> <p>今年度を総括し、22年度に向けて重点施策として取り上げているのが、緊急雇用対策の決定と障がい者雇用の促進の2本柱で考えています。</p> <p>緊急雇用対策の中に、もちろん若年者への対策も盛り込んで計画を立てて進めています。</p> <p>事業内容ごとに見ますと、先ほど労働局で説明させていただいた各種支援事業、支援策を使つての雇用対策になります。</p> <p>なお、私は代理で出席させていただいているのですが、仕事館の館長をしています。</p> <p>私が1階部分にいまして、2階にサポステがあります。</p> <p>私どもの所においていただいた求職者の方で、まだ就職されるための準備が出来ていない方や、コミュニケーションがなかなか取りづらい若い方については、サポステに受け入れをしていただいています。</p> <p>また、サポステから就職準備が整った方については、私どもで職業</p>

樋口委員 (代理：野島館長)	<p>紹介させていただき，非常に連携させていただいているというか，私どもから無理をお願いしているというか，日頃から非常に協力させていただいていることに，まず感謝をさせていただきたいと思います。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>
西條会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて，新潟県労政雇用課の矢野委員の代理で出席されています益田係長からお願いします。</p>
矢野委員 (代理：益田係長)	<p>資料は「新潟県の雇用対策」です。</p> <p>新潟県の主な雇用対策については，長引く雇用情勢の悪化に対して，県では緊急雇用の創出を最優先課題として事業を行っているところです。</p> <p>国からの基金を活用して3年間のふるさと雇用再生特別基金事業，また，1年間までの緊急雇用創出事業を実施してきています。</p> <p>平成21年度は，2月末までに約5,000人の雇用を創出しており，来年度は介護，医療，農業などの重点分野で新たに約6,000人の雇用創出を予定しているところです。</p> <p>このほか，テクノスクールや民間教育機関等を活用した職業訓練による就職支援の強化，昨年7月にオープンした求職者総合支援センターによる就労面，住宅，資金面での相談など，離職者等に対する支援を行っていきたいと考えています。</p> <p>裏面の若年者雇用対策の強化については，先ほどしごと館からもお話がありましたが，若年者のワンストップサービスセンター事業として，若者の就職促進を図るため，新潟サポステと同じ建物にあります「若者しごと館」を活用して，職業能力開発や求人情報を提供していきたいと考えています。</p> <p>会社に勤めても，すぐに辞めてしまうような状況もありますので，そうならないように若者や会社の担当者を対象としたセミナー等も進めていきたいと考えています。</p> <p>また，昨年12月に県内すべての高校3年生に対して，高校を通じて「若者のための労働ハンドブック」を配布させていただきました。これは，普通高校ですと，仕事に対する教育がなかなかされていないということで，働くことに対する心構えや労働に対する簡単な法律の紹介というようなことが記載されています。</p> <p>このほか，若者自立支援推進事業としては，県内の各サポステと県振興局と連携して，地域のネットワーク形成のためのセミナー等を開催したいと考えています。</p> <p>このほかの事業としては，Uターン就職の促進，働きやすい職場づ</p>

<p>矢野委員 (代理：益田係長)</p>	<p>くり，ワーク・ライフ・バランス事業を考えています。 概要は記載のとおりですので，後ほどご覧いただきたいと思 います。以上です。</p>
<p>西條会長</p>	<p>ありがとうございました。 続いて，新潟若者自立支援ネットワーク・伴走舎の市嶋委員から お願いします。</p>
<p>市嶋委員</p>	<p>市嶋です。よろしく申し上げます。 最初に情報提供として，私どもの活動について取材をいただいた 新聞記事です。 1枚目は，新潟日報に掲載された「わたしのまちなか」というシ リーズで沼垂が取り上げられていまして，沼垂の中で私たちが事 業を始めたことが，地域にとって非常に一つの刺激になったり，と てもありがたく感じていて，連携しているいろいろなことができそ うですねということが後半部分に書いてあります。 私どもが当初考えていた，地域の中に入り込みながら地域のニ ーズであるとか，本当に困ったことを若者が支援していける体 制が徐々に出来始めているということが，これを見ていただくと 分かります。 2枚目は，私たちがいろいろな事業活動をしている中に映像制作 の事業があるのですが，サンデー毎日の3月の第1週でしたであ りましょうか，「少しの手助けで人は動き出す～話題のニートが 作った映画」ということで，私どもが法人化する前だったの ですが，作った映画と取材内容について書いています。 全国から上映会の問い合わせ等が入っているということで， 新潟市内でも多く上映していないので，機会があったら今年 度も上映会をやりたいと考えています。 それから，A3の資料は，英国人が引きこもりの映画を制作 したということで，既に東京地区での上映会が終わり，今後， 全国にこの映画を自主上映的な形で展開していきたいという ことが書いてあります。 私ども伴走舎が独自でやるか，或いはこころの健康センター が主導して動いています，ひきこもりの市民団体のネットワ ークが，来年度立ち上がる予定なので，そこでやってくれる のが一番ふさわしいと思いつつ，来年度，上映にこぎつけ たいということで資料を添付しました。 私たちが伴走舎の活動といいますと，昨年12月に立ち上げ て，先ほど申しましたように，徐々に沼垂地区でいろいろな 事業が受入れられつつあります。</p>

市嶋委員	<p>4月からは文化教室や喫茶店経営もオープンの準備に入り，おそらく5月か6月位にフルの体制で出来ることになるだろうと思っています。</p> <p>是非，ここにいらっしゃる委員の方も，毎日やっておりますので，ふらっと顔を出していただきたいと思います。</p> <p>それから，私どもプレジョブというのを非常に大事にしたいと思っています。</p> <p>出口ばかりやるのではなく，入口の部分をしっかりやっていきたいということで，沼垂小学校と総合学習で提携を始めまして，先だって私どもが出向いて授業をやって，子どもたちが私たちの施設に遊びに来たりしているような状況が生まれています。</p> <p>そういう関係性の中から徐々に小学校だけではなく，万代高校や明鏡高校などとも関係づくりをして，私たちの事業を見ながら将来の若者がイメージを持てるような関係性を作っていきたいというのが，来年度の結構大きな事業だと思っています。以上です。</p>
西條会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて，新潟商工会議所中小企業振興部の今井委員からお願いします。</p>
今井委員	<p>新潟商工会議所自体が経済団体ということで，地域の事業者の集まりです。</p> <p>雇用を推進するという意味では，啓発行為が中心になります。</p> <p>事業者にレクチャーしていただくということで，会報あるいは会報等を通じて事業のご理解をいただくことで進めたいと思っています。</p> <p>また，本日は資料を用意していなかったのですが，私どもの新潟県商工会議所連合会で，厚生労働省から委託を受けていますジョブ・カード事業を行っています。</p> <p>私どもの職員も出向していますが，これはフリーターあるいは正社員の経験のない方を中心に，ジョブ・カードを作って就職促進を図ろうという厚生労働省が進めている事業です。</p> <p>この事業を通じて，地域の若年者等の雇用創出に協力していきたいと考えています。以上です。</p>
西條会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて，新潟市職業訓練協会の神田委員からお願いします。</p>
神田委員	<p>よろしくお願いします。</p> <p>私どもの事業は，新潟市高等職業訓練の職業訓練として，既に勤め</p>

<p>神田委員</p>	<p>ていらっしゃる方，有職者に対し，夜間や土・日の時間を使った専門対応の技術・技能修得の事業です。</p> <p>また，新潟地域職業訓練センターという位置付けで，市民講座として，一般市民に対する趣味的な講座の実施とともに，実務者研修として，求職されている方を対象に，各種パソコンの講座を開設しています。</p> <p>資料の「仕事に必要なIT操作習得！訓練センターが応援します！！」は，主に求職者を中心にしたパソコン講座の講習の内容が載っています。</p> <p>これと併せて，先ほどの雇用・能力開発機構の説明にありましたが，国事業の基金訓練について，現在，生徒を募集しており，5月開講に向けて求職者に対する基金訓練の実施を予定しています。</p> <p>以上です。</p>
<p>西條会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて，就労体験受入企業連絡会の中島委員からお願いします。</p>
<p>中島委員</p>	<p>先ほど竹葉所長からお話がありましたし，私の方から個人的に申し上げた内容が殆ど全てでございます。</p> <p>先日，第1回目の企業の顔合わせ会と懇談会が持たれました。</p> <p>これはかなり大きな一歩で，ようやく我々もグループとしての活動が出来ます。</p> <p>月に1回，こういうことはある意味においては続けることが大事だということがあり，出来るだけ1社でも多くの方々に顔を出していただき，また，「JOIN」やハローワークや様々な関連機関との連絡も密に取りながら，若者支援の最前線に立たなければいけない立場にある部署ですので，しっかりやっていきたいと思っています。</p> <p>来月の4月の会合の結果は，またご報告できると思いますので，よろしくお願いします。</p>
<p>西條会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて，新潟県経営者協会の山岸委員からお願いします。</p>
<p>山岸委員</p>	<p>山岸です。</p> <p>県の事業でジョブカフェ事業があるのですが，この委託を受け，実施している団体です。</p> <p>この事業を一言で言えば，若者向けの雇用関係のサービスセンターということで，長岡地区を中心に活動しています。</p> <p>内容はキャリアカウンセリング，セミナー，ジョブサーチバスなど</p>

山岸委員	<p>ですが、このジョブサーチバスは工場見学を主とし、定期的に運行しており、学生からもかなりご利用いただいています。以上です。</p>
西條会長	<p>ありがとうございました。 続いて、新潟市こころの健康センターの福島委員からお願いします。</p>
福島副会長	<p>こころの健康センターからは、当会議に関係が深いと思われることについてご説明したいと思います。</p> <p>啓発・普及に関してですが、これまで3年間行ってまいりました「ひきこもりアートフォーラム・はじめの一步展」です。</p> <p>これは、来年度も開催する予定でいます。</p> <p>時期や規模等は未定です。</p> <p>昨年は3月、今年は2月で、雪が降ったり、年度末の慌ただしい時期になりましたので、できればもう少し早めにとは考えていますが、関係団体の皆様と協議で決めていきたいと思っています。</p> <p>また、8月に新潟青陵大学におきまして、新潟市が共催となり、ひきこもりと不登校をテーマとした公開講座が開かれます。</p> <p>私が、ひきこもりと不登校をテーマとして精神科医の立場からお話をさせていただきますし、他にひきこもりや不登校の子どもさんを持たれた親御さんによる体験談の発表もあります。</p> <p>これは、8月28日の土曜日の午後となっています。</p> <p>また、事業の説明ではないのですが、お配りした「『代表電話番号』の変更について」の資料をご覧ください。</p> <p>電話回線を相談専用と事務専用に分けさせていただきます。</p> <p>これは、当センターの電話回線が相談電話でふさがっていることが多く、つながりにくいということを受けて行う措置です。</p> <p>ただ、相談に対応する者が増えるわけでないので、残念ながら来所相談も電話相談もお待ちいただくという状況については、基本的に変わりはありません。</p> <p>最後に、当センターではないのですが、情報としてお伝えしておきたいことがあります。</p> <p>先ほど市嶋委員から少しお話がありましたが、アートフォーラムにこれまでご協力いただきました団体の皆様とともに、障がい支援に関するネットワークづくりを現在考えています。</p> <p>名称や事務局をどこに置くなど決まっていますが、来年度中に発足できればと思っています。</p> <p>これについては、また情報がありましたらお伝えしていきたいと思っています。以上です。</p>

西條会長

ありがとうございました。

最後に、新潟大学から報告させていただきます。

「平成22年3月卒業（修了）予定者の就職支援状況等について」の資料をご覧ください。

平成22年度の詳細計画については、まだ決定していませんので、今年度実施した新規事業を中心に来年度も実施していく予定にしています。

特に、今年度は4年生向けの支援をかなり強化しました。

一つ目として、10月以降、キャリアコンサルタント資格取得者を4名採用し、特に個別支援の充実を図っています。

これは、まだ就職が決まっていない学生に個別に電話で聴取り調査、または相談室に来ていただいていたの定期的な面談を続けてきました。

それから、それぞれ学部との連携で、学部に出向いて行ったり、または企業開拓、求人先の開拓も担当し、これまでやってきました。来年度もその事業については継続する予定にしています。

また、特に求人開拓ということで県内企業との懇談会を実施したり、または4年生向けの企業の合同説明会等も、平成21年度新規事業として開催しています。

就職活動もかなり長期化するということで、特に首都圏就職希望の学生等については、費用負担、交通費だけでも30～40万円かかることとなりますので、無料のバス運行等も今年度については実施しました。

それ以外にもいくつかありますが、2～3ページが、3月20日現在の就職内定率です。

一番下の合計のところだけ見ていただくと、昨年度の同時期に比べて学部については1.5ポイントダウンという状況です。

現在の全国平均等に比べると、差はまだ少ない方という感じはしていますが、最終が5月ですので、これからの伸びというのがあまり期待できないというところもあり、そういう意味ではかなり厳しい状況と思っています。

ただ、本学だけではなく、近隣の私学等の話を聞くと、かなり厳しい状況には変わりないと思いますので、卒業後、無業という形に極力ならないような支援をしているところです。

それから、就職支援の出口のところだけではなく、4ページの資料のように平成22年度から大学の組織を変え、教育・学生支援機構というものを設置することにしています。

大学の教育ということだけではなく、正課と正課外、いわゆる課外活動等も含めた形で一貫性のある支援をしていこうということで、ここで入学から出口までのサポートをする。

西條会長	<p>特に学生支援センターの中に学生相談部門が設置され，学生対応の臨床心理士などを採用して設置する予定にしています。</p> <p>入学から卒業まで学生の教育だけではない面も併せて支援しているということですので。</p> <p>本学からの報告は以上です。</p>
事務局（笠原）	<p>本日，オブザーバーでご出席いただいています「JOIN」様からご報告したいとのことですので，お時間をいただいてよろしいでしょうか。</p>
西條会長	<p>はい。それでは，「JOIN」様から報告をお願いします。</p>
JOIN (佐藤担当)	<p>この場をお借りして，私からアナウンスをさせていただきたいと思います。</p> <p>お手元にリーフレットをお配りさせていただきました。</p> <p>国連が4月2日を「世界自閉症啓発デー」と定めています。</p> <p>それに関連して来週の土曜日，新潟でもフォーラムを開催します。</p> <p>昨年に続いて今回は2回目なのですが，就労支援をテーマに行うことになりました。</p> <p>是非，皆さん，ご興味のある方はご参加いただけたらと思います。</p> <p>あと1週間なのですが，広報もご協力いただけたらありがたいと思います。私からは以上です。</p>
西條会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただ今，各委員からそれぞれの今後の計画等をご説明いただきました。ご質問，ご意見等がありますか。</p>
中島委員	<p>これは福島委員を含めてのお尋ねなのですが，今回，事例紹介がありました，その2組とも「親の動揺」という一言が入っています。</p> <p>私も自閉症児の親ですし，実際に職に就いていないような状況，これも解決するのは非常に難しい状態にあるわけですが，そういうことを知ったときの親の気持ちというのは，非常に大きな動揺があると思ったのです。</p> <p>それが益々当事者の状態を悪化させていくものだということは，精神医学などの世界でもかなり常識化されていることなのです。</p> <p>常識化されているということは，今，サポステに来られている方たちの中にも当てはまることであろうと思うのです。</p> <p>端的に言えば，現在の活動の中に家族支援というものが全く欠けている。</p> <p>家族に対する説明，援助，そういったものに対する配慮が，実際問</p>

<p>中島委員</p>	<p>題，現場ではやられているのだらうと思うのですが，この会議の中で取り上げられることもなく，また，そういう案を練り上げていこうという方向性もないという状態にあります。</p> <p>その辺で，まず家族支援に対する重要性のご認識を皆さんに持っていただきたいということと，それに対して具体的にどのようにしたらいいのかということは，お名前を出すのは誠に失礼なのですが，専門家であられる福島委員のご支援，ご指示を得て，我々の方でも考えていかなければいけないのではないかと思います。</p> <p>それともう一つですが，この間，あるところから三条サポステの「ニートにしないための子どもを育て方」という資料が送られてきました。</p> <p>まだ，詳細に見る時間がなく机の上に置いてあるのですが，そもそも他のサポステさんは何をやっているのだらうということにも目を向けていいのではないかと考えています。</p> <p>できれば，ニートにしないための子育てのパンフレットやリーフレットについて，こちらにいらっしゃる市嶋委員も読み解く鋭い目をお持ちですし，もしできれば，それを作られた方に来ていただき，説明していただくことが最高ですが，難しいことであれば，きちんとした内容の把握を我々ができるように，何か学習のチャンスを与えていただきたいと思っています。</p>
<p>福島副会長</p>	<p>私が答えるのが適当かどうか，正直よく分かりませんが，精神科医として発達障がい専門でもないですし，当センター事業としてそういった仕事が含まれるわけでもないの，なかなか微妙なところもありますが，私の考えとして述べさせていただきたいと思います。</p> <p>確かに現場においては，発達障がいの方，引きこもりの方，様々いらっしゃると思いますが，発達障がいに限らず，特にニート，引きこもりのお子さんの場合には，親御さんの支援はとても大事だということは認識していますし，実際にそういう対応をしています。</p> <p>ただ，計画的にということになりますと，なかなか難しいところも正直あると認識しています。</p> <p>発達障がいについては，障がい福祉課で考えるということもありますが，縦割りにならないように，発達障がいに関してもこうした検討する会議もあります。</p> <p>その会議に私も出ておりますので，私が直接所管している部署ではありませんが，そうした会議との連携も図りながら，どこかで親御さん支援，家族支援に関して，体系的に，計画的に考えていく必要はあると思っています。</p> <p>ご意見をいただき，少し考えていきたいと思っています。</p>

西條会長	<p>ありがとうございます。 各委員からの説明の質問を先にしたいと思います。 各委員からの説明に、ご意見やご質問はありますでしょうか。</p>
市嶋委員	<p>篠田委員にお聞きしたいのですが、実は最近、私どもが法人化したために、市内の広域から様々な相談が入るのです。 最近、3名ほどの民生委員の方から直接連絡をいただき、実は引きこもっている方がいて、或いはそれに近い方がいて、どこに相談すればいいか全然分からなかったという電話で、ある方から聞いた、或いは新聞記事を見て、ようやく私どもへアクセスしてきたというケースがあるのです。 3名ともおっしゃっていたのは、自分たち民生委員としてそういうことについて勉強をまったくしていなかったし、勉強する機会が実はあるのかもしれないけれども、そういう機会が自分の身近になかった。 そういう研修みたいなものをしてもらおうと、すごくありがたいのですということが、3名とも実は口を揃えておっしゃっていたのです。 実際、おやりになっている部分はあると思うのですが、どの程度不登校、ひきこもり、あるいは支援などについて、民生委員の方々へのきちんとした啓発的なことを実施しているのかということをお聞きしたいと思います。</p>
篠田委員	<p>その3名のことは分かりませんが、私の南万代地区民協のことを申し上げますと19人いて、それが6部会に分かれて所属しています。全員が全てのことを学ぶというのは、なかなか厳しいと思いますので、部会で学んだことをいかにフィードバックしていくか、皆が共有していくかということが問われているのだと思います。 ご指摘のところは、多分その辺に問題があったのかなと思います。市嶋委員が前におやりになっていた団体を、以前、児童部会というところでお呼びをして、お話をお聞きしたこともありますし、青少年部会と児童部会が多分その辺をやると思います。 ただ、非常に難しいところで、障がい福祉部会もあるし、発達障がいや障害でないのだということであれば、私は児童部会なり青少年部会が扱うべき課題だろうと思います。 ノートにしてもそうだろうと思いますが、非常にもぐりこんでいて、ケース検討や事例でこういうものがありましたと勉強しづらいところもあるのかなと思っています。 今後、多分そのことでやるのであれば、私の部会がやっていかなけ</p>

篠田委員	<p>ればならないだろうと思います。</p> <p>次の総会は、先ほど申し上げたことと、それから今度、新潟市が7年ぶりに児童虐待防止マニュアルの作り替えをしましたので、それを勉強しなければならないだろうと思っています。</p> <p>そうすると、あと残るのは秋の研修ですが、その辺で検討させていただきたいと思っています。</p> <p>重ねて申し上げますが、民生委員は研修をしていないのではなく、やっています。</p> <p>一昨年にサポステをお呼びしてお話をさせていただいています。</p> <p>共有というところに問題があるのではないかと思います。</p>
市嶋委員	<p>分かりました。ありがとうございます。</p>
西條会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他に何かありますか。</p> <p>特にないようですので、次の議事に入らせていただきたいと思います。</p> <p>続いて、3番目の意見交換です。</p> <p>新潟地域若者サポートステーションは、先ほど竹葉所長のお話にもありましたように、新規の登録者数が年々減少しています。</p> <p>立ち上げの平成19年度では、新規登録者が241人でしたが、20年度では215人、21年度では2月末現在で147人となっています。</p> <p>このように新規登録者数が減少していますが、サポステの利用促進に向けた取組やPR方法等について、委員の皆様からご自由に意見交換をしていただきたいと思います。</p> <p>先ほど中島委員から情報収集等の話もありましたが、そういった点も踏まえて何かご意見等がありましたら、どうぞ活発なご意見をお願いしたいと思います。</p> <p>これについて、まず、竹葉所長で問題点と思われる項目等、何かありますでしょうか。</p>
事務局（竹葉）	<p>オープンしてから3年目に入ったわけですが、例えば新聞等で私どもの事業や、写真入りでサポートステーションのことが紹介されたりすると、その次の日から電話がかかってきて、そういう所があることが初めて分かったという人が多くなる傾向があるのです。</p> <p>逆に言うと、まだまだ我々が考えている以上に知らない人が多い。</p> <p>オープンした時は、様々な形でマスコミに乗る機会も多かったですが、年々、年に2回など少なくなっている段階です。</p>

事務局（竹葉）	<p>イベントで、もっとPRも必要ということで、申し上げたいことは、私どもが思っているほど知られていないということです。</p> <p>委員の方は様々な会合があると思うのです。</p> <p>そうした所へ我々が出向いて、5分程度のPRの時間をいただき、例えばパンフレットを配ったり、そういうようなことをして、もっと積極的に我々が出て行ってPRしなければいけないのかなと考えています。</p> <p>電話がかかってくるのは、こういう所があったことが分からなかったという保護者の方、これがどの位あるか我々はデータでは掴んでいませんが、一般に言われると、我々はデータとしては4,000名とも5,000名とも、必要としている人が新潟市内にいます。サポステの600代の人が登録しているのを見ると、まだ2割にはいかないのではないのでしょうか。</p> <p>本当に必要な人が知っているという段階では、そういう認識を持っていて、何とか皆さん方のお力、お知恵をいただけたらと思っているわけです。</p>
西條会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私から1点よろしいでしょうか。</p> <p>利用者総数からすると、かなり前年度から順調に増えているような感じがするのですが、新規の登録者数は減少しているということは、継続利用者の数が増えているということで考えてよろしいのでしょうか。</p>
事務局（竹葉）	<p>そうです。</p>
西條会長	<p>ちなみに、来所延べ数のその他の人数は、すごく上下が激しいような感じがするのですが、これはあまり意味はないのですか。</p> <p>ここでいう来所延べ数の本人、保護者以外の「その他」というのは、どういう方を指すのでしょうか。</p>
事務局（竹葉）	<p>例えば、サポステのボランティアスタッフがいるのですが、そうした方も、カウントとして入っています。</p>
西條会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ちなみに、新規登録者の中で他機関から紹介、例えばしごと館からの紹介ですとか、そういう割合的なものはどんなですか。</p>
事務局（竹葉）	<p>先ほど野島館長からも話がありましたが、私どもは非常に立地に恵まれており、全国でもこうした所は少なく、ハローワークと一緒に</p>

事務局（竹葉）	<p>なっているのです。 ですから、ハローワークの相談員が面接されて、2割以上のご紹介があります。</p>
西條会長	<p>ありがとうございます。 他に皆さんから何かありましたらお願いします。</p>
篠田委員	<p>事務局に確認をさせていただきたいことがあります。 送付を受けている議事録に、「部外秘」と書かれているのですが、私は個人で来ているのではなく、組織に報告しなければならない部分もあるので、一概に「部外秘」と書かれるとなかなか難しいのです。 例えば、今ほどの個別事例についてや、どの辺が「部外秘」が分からないと、それによって組織に報告するところで何を言っはならないのだということを教えていただければと思います。</p>
事務局（笠原）	<p>最後に、その辺のご説明を差し上げようと思っておりました。 現在、委員の皆さんにお送りしています議事録は、ご存知のように、作成の途中で予め皆様に記載の内容についてご確認いただいております。その後、完成版をお送りさせていただいております。 今ほどのお話にありますように、個別事例の報告などもありまして、個人情報という観点から委員以外「部外秘」という取扱いをお願いしています。 一方、市のホームページにも議事録を公開しています。 ホームページにつきましては、今ほどの個人情報に配慮して一部を非公開とし、資料に基づく説明は、一部割愛をしているものを掲載しています。 今ほどのご質問の内容につきましては、私どもから本日出席の委員様用と、ご報告用として市ホームページに公開する議事録の両方を送付させていただく方法でいかがでしょうか。</p>
篠田委員	<p>私どもの場合は、全員が守秘義務を持った人間ですので、あまり気にしなくともよく、また、外部へ漏れるということは想定しにくいのですが。</p>
事務局（笠原）	<p>民生委員の皆様は、当然に守秘義務を持った方ですので、個人情報にご配慮いただいたうえでご使用いただいても構わないと思います。 一方で、委員の皆様の中には守秘義務を持っていない方、そういった立場の方もいらっしゃると思いますので、委員用と公開用議事録を同封することでいかがでしょうか。</p>

西條会長	よろしいですか。
篠田委員	はい。
事務局（笠原）	ありがとうございました。
西條会長	サポステの利用促進やPR方法等について、皆さんからご提案やご意見がありましたらお願いします。
中島委員	先ほど申し上げました、他のサポステは何を実施しているのかということなのですが、少しお考えいただいたり、ご意見をいただけるとありがたいと思います。
事務局（笠原）	先ほどもご意見がありました三条や村上は既に開設し、三条については活動も先行していますので、現在の状況について、調べて資料を揃えたうえで、次回の会議にはご報告できるように準備させていただこうと思っています。
中島委員	その準備の方向性なのですが、交流促進を念頭において準備をすることをご報告をいただけるのか、それとも、交流促進は念頭にない方向での情報収集なのか、どちらになりますか。
事務局（笠原）	ご質問の交流促進というのは、三条であれば、三条サポステの方に来ていただくという意味ですか。
中島委員	交流促進の方法は様々ありますので、今、具体的にこういうことということではないにしても、少なくとも一方的に情報を集めるのか、あなたの方ではどういうことをやっているのですか、ああそうですかといった聞き方をするのか、それによって全然違います。
事務局（笠原）	はじめは、他のサポートステーションで、どのような活動をされているのかご報告したいと思います。 そのうえで、委員の皆様のご意見の中から、是非、こういったものは聞く必要があるとか、見たいとかということであれば、そういった交流の場は今後展開として考えたいと思っています。 まずは、どういった取組みをしているかについて、委員の皆様にご承知いただくということから始めたいと思っています。
中島委員	分かりました。

西條会長	<p>ありがとうございます。 他に委員の皆様から、いかがですか。</p>
市嶋委員	<p>先ほども民生委員の方からご相談というお話をしたのですが、実はその3名の方は、合併した旧新潟市以外の方だったのです。 相談そのものも、実は広域から入っていきまして、サポステさんの様々な仕掛けは旧新潟市内で実施していると思うのですが、各区の方へ働きかけていくような動きを実際にやられているのか、どういうふうに考えているのか、お聞かせいただけますか。 各区へ出向いていくというようなことも含めてお願いします。</p>
事務局（竹葉）	<p>今のところ考えていません。</p>
市嶋委員	<p>そうすると、そこに周知すると結構開拓につながる可能性があると思います。 中央区の方たちは情報が行き届いて、既にそれなりの方たちは相談に来たり、登録されていて、周辺部の方たちは、まだまだそういう情報を持ち得ていない可能性があるのではないかという気が少ししているのです。以上です。</p>
西條会長	<p>ありがとうございます。他にいかがですか。 私からもよろしいですか。 PR方法については、先ほどマスコミといったものが一つある。 それから、おそらく口コミみたいな要素も非常に大きいかと思うのです。 先ほど竹葉所長から、各機関の中で5分でも10分でもというお話がありました。 例えば、各機関の中でサポステのPRが可能な場であったり、または、効果的な周知ができる場、リーフレットも含めて必要なことになるのだと思いますが、ご検討いただけるようなことが各機関の方でありましたら、ご提案やご検討いただける部分はありますか。</p>
篠田委員	<p>先ほど申し上げたように、民生委員児童委員協議会で改選後、1回来ていただければと思っています。</p>
西條会長	<p>差し支えなければ、各機関で可能性についてご検討をいただきたいと思います。</p>
中島委員	<p>実はその件に関しまして、依然に私をご提案申し上げたことがあ</p>

<p>中島委員</p>	<p>り、なおかつ、新潟市が大きく関わっていることなのですが、その後、そういう動きがないということです。</p> <p>私は異業種交流会という組合に所属しており、異業種交流会は新潟市が運営支援しているところです。</p> <p>事務局も市役所の中にあります。</p> <p>そういった意味では、商業振興・雇用対策課から働きかけていただくと、事務局も、ある意味で言えば隣の机に書類を渡すようなものですから、ごく簡単な話だと思うのですが、それが多分僕の知っている限りでは、なされたとは思えない。</p> <p>それをなされたのであれば、私は知らなかったということで申し訳なく思いますが、なされなかったのであれば、どうしてしないのですかと聞きたいです。</p>
<p>事務局（笠原）</p>	<p>今ほどの委員のご意見は、大変ありがたく思っていますし、事実、異業種交流組合の事務局も市役所の中にあります。</p> <p>そういった意味で、異業種交流研究会にご協力いただけることというところ、おそらくはジョブトレ企業の協力事業所としてご協力いただくところが最も大きいと思っています。</p> <p>今後は総会の際にも、協力事業所としてのお願いも是非していきたいと思っています。ありがとうございます。</p>
<p>西條会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>その辺の可能性について他にありましたら、事務局で希望を取りまとめいただき、サポステに繋いでいただくとありがたいと思います。</p> <p>竹葉所長で、何か今後ご検討されていることなどありますか。</p>
<p>事務局（竹葉）</p>	<p>先ほども話しましたが、イベントを実施する時の前PRと後PRもしっかりやっていかなければいけないと思っています。</p> <p>マスコミというのは、一番大きいという感じを持っています。</p> <p>それと、様々なところから、機会はいただいているのです。</p> <p>去年でしたが、関屋地区の民生委員から、引きこもりというのはどういう人を言っているのかなど、時間をいただいて1時間ほどお話をさせていただき機会をいただきました。</p> <p>そういう機会だけではなく、先ほど言ったように、もっとそういう会合を我々が待つのではなく、5分位PRさせてもらえないかという積極性も必要と思っています。</p> <p>我々職員は誰でもPRが出来るし、そんなことも含めて私からお声をかけさせてもらったり、また、皆さんから声かけをいただければ、出向いていきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思</p>

事務局（竹葉）	<p>っています。</p>
西條会長	<p>ありがとうございます。是非，よろしくお願ひします。 それでは，その他の議題になりますか，何かございますか。</p>
事務局（笠原）	<p>事務局から3点ほどご連絡申し上げます。 1点目です。 前回，1月のネットワーク会議において，委員の皆様からご承諾いただきました委員の変更についてです。 平成22年度からは，現在の委員であります新潟県のライズ様に代り，新潟市発達障がい支援センター「JOIN」様にネットワーク会議に加わっていただこうと考えています。 ライズ様は，これまで大変ご協力いただき，ありがとうございました。 「JOIN」様は，新年度からどうかよろしくお願ひします。 続いて2点目です。 先ほどもお話がございましたが，議事録の件です。 次回からは，委員用と個人情報に配慮したものと2部お送りしたいと思ひます。 今後とも個人情報の取り扱いについて，十分ご協力いただけたらと思ひます。 続いて3点目です。 新潟市役所の組織の件です。 4月から，現在，私どもは商業振興・雇用対策課の雇用対策室ですが，4月から課に格上げとなり，新たに雇用対策課となります。 現下の厳しい雇用情勢を受け，雇用対策課としてさらなる雇用行政の推進と充実を図っていきたくと考えています。 今後ともご協力のほど，よろしくお願ひします。 事務局からは以上です。</p>
西條会長	<p>ありがとうございます。他にありませんでしょうか。 なければ，以上をもちまして，本日の会議を終了させていただきます。 ご協力ありがとうございました。</p>
司 会	<p>どうもありがとうございました。 今後とも，若年者支援のためお力をいただきますようよろしくお願ひします。 なお，新年度の会議日程などにつきましては，事務局で相談させていただきます，ご連絡を差し上げたいと考えています。</p>

司 会	その際には、是非、ご出席いただきますよう重ねてお願い申し上げます。 本日は大変お忙しいところ、ありがとうございました。 今後とも、よろしく申し上げます。
-----	--